

6 古典 ②

練成問題

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある人、友だちのひとり子の持てる大事の笛を借りてもてあそびけるが、  
 笛の中へ指を入れたりけり。抜かんとするに抜けず、あわてふためき、つ  
 らを赤らめ汗を流しぬ。身内走り集ひ、<sup>2</sup>引き抜かんとすれば、指切れて落  
 つるがごとく、痛み叫ぶに<sup>3</sup>せんかたなし。<sup>4</sup>かかるところへかの笛の主、  
<sup>5</sup>いまだ十歳ばかりなるが来たりて、「いかに。」と問ふ。<sup>6</sup>「面目なし。」と<sup>5</sup>  
 答ふ。この子の言ふやう、「<sup>7</sup>何かは苦しうさぶらふべき。指を取り出だし参  
 らせむ。」と、この笛を惜しげもなくみぢんにうち割りにけり。

〈如儼子「可笑記」より〉

3 □(1) — 線①「つらを赤らめ汗を流しぬ」、②「引き抜かんとすれば」の動  
 作主として最も適切なものを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア ある人
- イ 友だちのひとり子
- ウ 身内

①
②

4 □(2) — 線③「せんかたなし」の現代語訳として最も適切なものを次から  
 選び、記号で答えなさい。

- ア 余念がない。
- イ 我慢できない。
- ウ みつともない。
- エ どうしようもない。

□

4 □(3) — 線④「かかるところ」が指している内容として最も適切なものを  
 次から選び、記号で答えなさい。

- ア ある人の指が笛から抜けず、大騒ぎになっていたところ。
- イ ある人が友だちから借りた笛を吹いていたところ。
- ウ 身内の人たちが、ある人の指を手当てしていたところ。
- エ 借り物の笛を壊して、ある人が困っていたところ。

□

4 □(4) — 線⑤「いまだ十歳ばかりなるが来たりて」とありますが、「なる」  
 と「が」の間にはどのようなことが省略されていますか。本文中から漢  
 字一字で書き抜いて答えなさい。

□

5 □(5) — 線⑥「面目なし」から読み取れる気持ちとして適切でないものを  
 次から選び、記号で答えなさい。

- ア 恥ずかしさ。
- イ 情けなさ。
- ウ 申し訳なさ。
- エ 腹立たしさ。

□

2 □(6) — 線⑦「何かは苦しうさぶらふべき」を現代かなづかいに直し、す  
 べてひらがなで書きなさい。

□

5 □(7) 本文中では、主題として、どのような子供の姿が描かれていますか。次  
 から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 物惜しみをせず、自分の大事な笛を壊して急場を救う子供の姿。
- イ 笛をいたずらして、取り返しのつかない事態を引き起こす子供の姿。
- ウ 大人に大事な笛を取り上げられても我慢する子供の姿。
- エ 貸した笛を相手に壊され、貸したことを後悔する子供の姿。

□

2 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

唐の玄宗帝、月の夜、笛吹きたまひけるに、<sup>①</sup>その声、竜の鳴くにたがはず。<sup>\*</sup>術者これを聞きて、竜の鳴くぞと思ひて、<sup>\*</sup>竜の声とどむる符を作りて、これを<sup>②</sup>封じてけり。そのとき、帝<sup>③</sup>にはかに手すくみ、息失せて、え吹きたまはず。<sup>\*</sup>宮の内にさわぎ嘆くこと、<sup>\*</sup>世に聞こえて、<sup>\*</sup>天下のうれへなりけり。<sup>④</sup>これをかの術者もれ聞きて、我が術の<sup>\*</sup>しるしある事を<sup>⑤</sup>さととりて、<sup>\*</sup>を破りてければ、帝もとのごとくなりたまひてけり。

〔十訓抄〕より

(注) 術者まじない師。

竜の声とどむる符 竜が鳴くのをやめさせるまじないの札。

宮 宮中。

世に聞こえて 世間で評判になって。

天下のうれへ 世間の人々の共通の心配ごと。

しるし 霊験。効き目。

4 (1) — 線①「その声、竜の鳴くにたがはず」の現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 玄宗帝が吹く笛の音は、竜の鳴き声にそっくりだ。

イ 竜の鳴き声は、さすがに竜にふさわしい声にちがいない。

ウ 玄宗帝の声は、実は竜の鳴き声だったにちがいない。

エ 玄宗帝の声を、竜の鳴き声かと疑った。

4 (2) — 線②「封じてけり」の主語として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 玄宗帝    イ 竜                      ウ 術者

2 (3) — 線③「にはかに」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

4 (4) — 線④「え吹きたまはず」の現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 吹くことができない。

イ お吹きになることができない。

ウ 全くお吹きにならない。

エ 全く吹かない。

4 (5) — 線⑤「これ」は何を指していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 術者のまじないがよく効いたといううわさ。

イ 玄宗帝が騒ぎ嘆いているといううわさ。

ウ 竜の鳴き声が聞こえなくなったといううわさ。

エ 玄宗帝の体調がよくないといううわさ。

4 (6) ※ に入る最も適切なことばを、本文中から一語で書き抜いて答えなさい。

4 (7) 本文の内容に合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 術者は、まじないをかけて、弱っていた竜を回復させた。

イ 帝は、術者のまじないのせいで、笛を吹けなくなった。

ウ 術者は、帝が笛を吹けないようにまじないをかけた。

エ 帝は、術者に命じて、竜の鳴き声を止めさせた。

3 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

桜の花ざかりに、歌よむ友だち、これかれかひ連ねて、そこかしこと、見ありきける、かへるさに、見し花どものこと、語りつつ来るに、ひとりがいふやう、「まろは、歌よまむと、思ひめぐらしけるほどに、<sup>①</sup>けふの花は、いかにありけむ、<sup>③</sup>こまやかにも見ずなりぬ。」といへるは、<sup>④</sup>をこがましきやうなれど、まことはたれもさもあることと、<sup>⑤</sup>をかしくぞ聞きし。<sup>5</sup>

〈本居宣長「玉勝間」より〉

〔現代語訳〕

桜の満開の時に、歌よみの仲間が、この人あの人と連れだって、あちらこちらと、見て歩いた、その帰途に、見てきた桜の花などのことを、話しながら来ると、一人が語るには、「わたしは、歌をよもうと思って、あれこれ考えているうちに、本日の花は、どんなであったろうか、<sup>①</sup>見ないでしまった。」と言ったのは、<sup>②</sup>、実際にはだれにも<sup>5</sup>経験のあることと、おもしろく聞いた。

2  (1) — 線①「いふやう」、②「けふ」を、それぞれ現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

①	②
---	---

3  (2) — 線③「こまやかにも」の現代語訳として  ① に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

- ア あわただしくて    イ 詳しくは  
ウ こまか過ぎて        エ ゆっくりとは

4  (3) — 線④「をこがましきやうなれど」の現代語訳として  ② に入る

最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 言いわけがましいようだが、  
イ ありそうもないことだが、  
ウ 想像もできないことのようなだが、  
エ ばかげているようだが、

3  (4) — 線⑤「をかしくぞ聞きし」の部分では、係り結びが用いられていません。同じように係り結びが用いられているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。  
イ 月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり。  
ウ いづれもいづれも、晴れならずといふことぞなき。  
エ 表八句を庵の柱に懸け置く。

5  (5) 本文中で、筆者は、だれにでもよくあることとして、どのようなことを挙げていますか。書いて答えなさい。

(6) 本文の筆者である本居宣長は、『源氏物語』の研究者として知られています。『源氏物語』の①作者と、②作品が成立した時代を、次のそれぞれから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| ①      | ②      |        |        |
| ア 清少納言 | ア 奈良時代 | イ 鴨長明  | イ 平安時代 |
| ウ 紫式部  | ウ 鎌倉時代 | エ 兼好法師 | エ 室町時代 |

①	
②	

4 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある河のほとりに、蟻<sup>あり</sup>あそぶ事ありけり。にはかに水かさまさりきて、かの蟻をさそひ流る。浮きぬ沈みぬする所に、鳩<sup>はと</sup>①こずゑより②これを見て、「あはれなるありさまかな。」と、こずゑをちと食ひ切つて河の中におとしければ、蟻これに乗つて渚<sup>なみ</sup>にあがりぬ。かかりける所に、ある人、竿<sup>さそ</sup>のさきにとりもちを付けて、かの鳩を\*ささんとす。蟻心に思ふやう、「ただ今⑤の恩を送らうものを。」と思ひ、かの人の足にしつかと③食ひつきければ、④おびえあがつて、竿をかしこに投げ捨てけり。そのものの色や知る。しかるに、鳩これをさととりて、いづくともなく飛び去りぬ。

〈伊曾保物語〉より

(注) ちと＝少し。

ささんとす＝捕らえようとした。

恩を送らうものを＝恩返しをしたいなあ。

2  (1) — 線①「こずゑ」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなれ。

5  (2) — 線②「これ」は、何のどのような様子を指していますか。書いて答えなさい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

4  (3) — 線③「食ひつきければ」、④「おびえあがつて」の主語を示した組み合わせとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア (3) 蟻 ④ 鳩      イ (3) 蟻 ④ ある人
- ウ (3) 鳩 ④ 蟻      エ (3) 鳩 ④ ある人
- オ (3) ある人 ④ 蟻      カ (3) ある人 ④ 鳩

5  (4) — 線⑤「そのものの色や知る」は、「(人は)そのいきさつを知っただろうか」という意味ですが、ここで用いられている表現技法として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 対句      イ 反語
- ウ 比喩      エ 倒置

4  (5) 本文全体を大きく二つに分けるとすると、後半部分はどこから始まりますか。本文中からその最初の五字を書き抜いて答えなさい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

5  (6) このあとの本文には、ある教訓が付け加えられています。その教訓として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア いはんや悪人に対してよき事を教ふといへども、かへつてその罪をなせり。

イ 人の恩を受けたらむ者は、いかさまにもその報ひをせばやと思ふ志を持つべし。

ウ 人がものをいへと教ふればとて、思案もせず、あはてて物をいふべからず。

エ たとひ人我に仇<sup>あだ</sup>をなすべき者とさるとも、仇をもつてむかふべからず。